



## 国際交流支援事業について ～各地方自治体の取り組みについて～

(一財)自治体国際化協会交流支援部 交流親善課

### 国際交流支援事業について

クレアでは、地方自治体や地域国際化協会が主体的に行う国際交流事業のうち、交流の拡大や発展が見込まれ、地域住民などの幅広い参画が見込まれる事業に、対象経費の一部を助成しています。

今回、2020年度に助成を行った事業の中から、その取り組みを紹介します。

こうした取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が行われることを期待しています。

#### 【対象事業】

- ・姉妹提携または友好提携に係る記念事業
- ・文化、芸術または研究に関する交流事業
- ・青少年交流に関する事業
- ・国際会議に関する事業
- ・その他地域の特性を活かした交流事業

原則として、新規事業が助成の対象ですが、継続的に行われている事業であってもほかの自治体や地域国際化協会のモデルとなるような、先駆的な事業であれば対象となります。

#### 【対象団体】

都道府県、市区町村、地域国際化協会

#### 【助成金額】

助成対象経費の1/2以内、上限は以下の金額

海外で行う事業・・・ 500万円

国内で行う事業・・・ 300万円

#### 【国際交流支援事業掲載 HP】

<http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/page-5.html>

#### 【お問い合わせ先】

2022年度事業につきましては、9月ごろから募集を行う予定です。

交流支援部 交流親善課

Tel : 03-5213-1723 Mail : koushin@clair.or.jp

### 盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携 35周年記念事業

岩手県盛岡市

盛岡市とカナダ・ビクトリア市は、1985年5月24日に、盛岡市出身の偉人、新渡戸稲造博士を縁として、姉妹都市の提携を行い、変わらぬ友情を誓い合いました。

2020年度は姉妹都市提携35周年の記念の年であり、自治体国際化協会の支援を得ながら、両市民の相互訪問など、周年記念事業が行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、そのほとんどはやむなく中止となりました。

しかし、このような状況においても、35周年記念事業実行委員会による補助金を活用し、地元酒造業者による「35周年記念ビール」の製造・販売や、大学生が主体となって企画した、ビクトリア市アーティストと日本人アーティストによる展示会の開催など、民間が主体となった、これまでにない交流事業が展開されました。これらの事業を通して、本市の長きにわたる姉妹都市交流促進活動が市民に十分浸透し、コロナ禍においても交流が途切れることなく、互いを励まし合い、さらなる広がりを見せた1年となりました。

さまざまな交流が制限される今、姉妹都市、友好都市との交流を途絶えさせまいと、多くの自治体が知恵を絞



姉妹都市提携35周年を記念して製作された記念ビール



姉妹都市提携 35 周年記念事業を企画した岩手県立大学薬田研究室の学生の皆さん

られているところと思いますが、本市におきましても、コロナ禍における新たな相互交流の形を引き続き模索しながら、新渡戸稲造博士の「太平洋の架け橋」という壮大な志を継承してまいります。

## 『人道の港敦賀記念年』国際文化交流事業

### 福井県敦賀市

敦賀市では、「杉原ビザ発給 80 周年」「ポーランド孤児上陸 100 周年」の記念年である 2020 年に、資料館「人道の港 敦賀ムゼウム」をリニューアルオープンし、それらを中心とした「人道の港敦賀記念年」国際文化交流事業を 11 月 3 日～8 日にかけて開催しました。

敦賀港は、1920 年代にシベリアで家族を失い過酷な状況にあったポーランド孤児や、1940 年代にリトアニアの日本領事代理であった杉原千畝氏が発給した「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港です。「人道の港 敦賀ムゼウム」では、孤児と難民が敦賀に上陸した歴史や、彼らに手を差し伸べた「心温まるエピソード」などを紹介し、命の大切さと平和の尊さを世界に向けて発信しています。

こうした史実に基づき、敦賀と関係が深いポーランドやイスラエル、リトアニア、オランダといった国々を中心にした国際文化交流イベントを実施しました。これまで市民団体などにより開催されてきましたが、市が主催となり規模を拡大してリニューアルオープンと同時期の開催とすることで、国際交流の促進と敦賀への理解を深める機会となりました。

これらの取り組みを通じ、市民が国際交流を体感し、



関係各国の外交団をはじめとする来賓の方々が出席したムゼウムオープニングセレモニーでのテープカット



ステージイベント



『ミライエ』敦賀港に面する金ヶ崎緑地が LED 電球約 60 万球の光で包まれる北陸最大級のイルミネーション

また、自分の住んでいる場所についての理解をさらに深めるという素晴らしい機会に恵まれました。今後とも、関係各国との絆を大切にするとともに、国際文化交流の輪を広げてまいります。

## 京都・グアダハラ姉妹都市提携 40 周年記念事業

### 京都市

京都市とメキシコ合衆国のグアダハラ市は 1980 年 10 月 20 日に姉妹都市提携を行い、2020 年度に提携 40 周年を迎えました。



グアダハラ市とはこれまで、両市代表団の相互派遣時に、市民団体による記念公演を開催し、両市の伝統的な音楽や舞踊を披露するなど、文化活動を中心に交流を行ってきました。

今回の40周年記念事業では、コロナ禍により両市の代表団派遣は中止となりましたが、市民団体と共に工夫を重ね、新しい形での交流事業を実施しました。

その1つとして、京都外国語大学とグアダハラ大学が主体となり、オンラインによる学術セミナーが開催されました。同セミナーでは、両大学の教授や学生により、両市の交流の歴史や魅力について活発な議論が行われ、その様子はYouTubeなどを通じて世界中に発信されました。

また、京都市国際交流会館や市内地下道などにおいて、グアダハラ市の写真パネルを展示することで、密を避けつつ、都市の魅力を発信することができました。

そのほか、両市の子供たちが描いた絵画をバーチャル空間に展示する「バーチャル児童絵画展」を開催しました。初の試みでしたが、時間や場所に縛られることなく、創意工夫に満ちた子供たちの作品を多くの方に見ていただくことができました。

今回の40周年記念事業で交流の幅も広がり、今後も引き続き、市民などを中心とした有意義な都市間交流を

推進してまいります。

## モンゴル国友好交流強化事業

### 茨城県行方市

行方市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、モンゴル国のホストタウンに登録されたことを契機に、同国との交流をスタートしました。これまで、ウエイトリフティングナショナルチームの事前キャンプ受入れやモンゴル国籍地域おこし協力隊員によるモンゴル教室、茨城県内ホストタウンと連携したスポーツ用品贈呈など同国との各種交流活動を実施してきました。

この事業では、同国とのさらなる友好関係強化を図るため、両国の相互理解を促進するさまざまな施策を実施しました。

まず、行方市民へのモンゴル理解促進として、伝統的な移動式住居であるゲル体験、学校給食でのモンゴルメニューの提供、両国児童生徒のオンライン交流および特産品調査を通して、広大な国土、豊かな自然および固有の文化を有するモンゴル国の魅力を再発見しました。

次に、モンゴル国への本市理解促進として、モンゴル版のパンフレットやプロモーション動画を制作しました。今後はこれらを活用し、本市の魅力を伝えるシティプロモーション活動を実施していきます。

2022年は日本・モンゴル外交関係樹立50周年を迎えます。両国友好関係の歴史的節目となるこの機会に、本市においてもオリンピックレガシーとして未来に引き継いでいくため、同国との人的、文化的、経済的な相互交流を加速させていきたいと考えています。



プロモーション動画はこちら



バーチャル児童絵画展の様子



京都市国際交流会館において、メキシコへの留学経験者によるトークセッションを実施しました



幼稚園児のゲル体験